

## 平成23年度 鳥取西高等学校 第三者評価 評価書

### 【講評】

鳥取藩校「尚徳館」を源とし長い歴史を有する鳥取西高等学校では、「文武併進」の精神を受け継ぎ、次代を担う使命を自覚して、社会の発展・進歩に貢献する人材を育成することを目指している。校長をはじめとする教職員は、その目標に沿って教育にあたり、進学面のみならず部活動面においても多くの成果をあげている。

鳥取西高等学校は、知・徳・体の調和のとれた人格の育成を基本に置き、時代の変化に順応しつつ、生徒の能力開発を行うことを中長期ビジョンとしている。そしてそのビジョンを具現化すべく、5つの重点目標、即ち①学力向上と進路実現のための施策の徹底、②「今を社会的に生きる」ための生活指導の推進、③スポーツ活動と文化活動の更なる充実、④幅の広い教養を身につけることを目指した生徒の意識向上、⑤本校の新しいあり方の構築、を展開して、教職員が一体となった教育活動を進めており、良好な状態にあると言える。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 学力付与と進路指導は最も期待される課題であり、それに応えようとする取り組みと努力は、評価できる。例えば、本来の授業に加えて補習や個別指導を行うなどの取り組み、習熟度に合わせた授業、年5回の個人面接の実施、充実した内容の「進路便り」などが挙げられる。
- ② 学力付与と並行して、品位や教養を備えた人格に育てるための取り組みが工夫されている。例えば、講演会「科学への誘い」（平成23年度からは理系だけでなく文系の学問・研究の現状について理解を深めるために「学問への誘い」として拡充）の開催、職業別講演会・進路講演会の実施、等である。前記①の取り組みとのバランスを保ちながら、次代を担う人格形成に努めている。
- ③ 教員全員が公開授業を行い、研鑽を積むことによって、自らの授業力向上に努めている。また、教員間の縦の関係、即ち先輩教員と後輩教員の関係も良好で、同じ目標に向かって取り組む体制が確立されている。さらに、市立北中学校との伝統的交流の中で、特に数学研究会の継続は相互に良い効果をもたらしている。
- ④ 一人当たりの図書貸出し冊数が年々増加し、平成22年度には前年度比24%増となっている。教科との連携や新刊購入に起因しているが、この傾向が続くことを期待する。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 現役合格率の向上と難関大学合格者数の増大という二つの要求を同時に満たすことは大きな困難が伴うものと予想されるが、周囲からの期待と受け止め、一層の効果的取り組みを期待する。
- ② 生徒への授業アンケート及び保護者へのアンケートが定期的に行われ、膨大なデータが集計・分析されているが、分析結果の活用が不十分と思われる。学校が一体となって、生徒・保護者に直接的・間接的にフィードバックするように取り組むことが必要である。
- ③ 安全計画、防災計画について不十分な点が多い。早急な改善を望む。  
なお、校舎の建替え・移転問題の影響で、耐震化対策の遅れが懸念される。全生徒の安全に関わる重要事項であるので、教育委員会と高校とが連携して、早急に対策を講じられたい。